

極低温科学センター50年の歩み

低温センター / 極低温科学センター 年表

低温センターの設立からはじまる極低温科学センターの歴史を主要年表にまとめました。低温センターの年表は、1991年発行の低温センターの広報誌「東北大学低温センター」20周年記念号から抜粋しました。

西暦	和歴	月	センター長	低温センター
1971	S46	4	神田英蔵 教授	低温センター、及び工学部サブセンター開設   日本酸素株式会社製60Lヘリウム液化  
1972	S47	4	竹内栄 教授	通研サブセンター開設 
1973	S48	1		センターだより第一号発行
1974	S49	4	渡辺浩 教授	
1975	S50	4		10T 超伝導マグネット 共同利用開始
1976	S51	4		福島県環境医学研究所へ液体ヘリウム供給開始  
		4		金研サブセンター・ 金研木村研とセンター間の 回収管完成 
		6		理学部サブセンター開設 
1978	S53	1		金研サブセンターの移転、改良工事開始

西暦	和歴	月	センター長	低温センター	
1978	S53	4		大型希釈冷凍機 共同利用開始	
		7		液化量総計 20 万 L 達成	
				低温センター	超低温実験施設
1979	S54	4			理学部付属超低温実験施設建設
				山形大学へ液体ヘリウム供給開始	
1980	S55	8		1,000 回目の運転 液化量総計 30 万 L を突破	
1981	S56	4		科学計測研究所サブセンター設置	
		9			液化機(30L/h)運用開始
1982	S57	10		科研サブセンター片平丁へ移転	
1984	S59	4	鈴木進 教授		
1986	S61	3		高温超伝導の発見	
		4			極微小エネルギー実験施設改組
1987	S62	4	平林真 教授		
		11		液化量総計 100 万 L 達成	
1989	H1	4	増本健 教授		
1993	H5			液化機更新 (TCF-50、150L/h)	

西暦	和歴	月	センター長	低温科学部	極低温物理学部
1996	H8	5	鈴木謙爾 教授	極低温科学センター発足	
1997	H9			電気通信研究所、多元物質科学研究 所へ回収配管敷設	
1998	H10	3		 <p>片平キャンパスヘリウムガス回収管</p>	液化機更新 (TCF-50、80L/h)  <p>リンデ社製 TCF50型 80L 液化機</p>
1998	H10	4	藤森啓安 教授	配管網による回収開始	
1998	H10	4			理学部、薬学部へ供給開始
2000	H12	4	井上明久 教授		
				極低温科学センターだより発刊開始	
					工学部供給開始
2001	H13				青葉山回収配管本管完成
2001	H13	5		低温寒剤の取り扱いと危険防止 (低温マニュアル) 発刊	
		9		丹野・細倉技官海外研修 (ライデン 大学カマリノネス研究所)	
				   <p>カマリノネス研究所ヘリウム液化施設</p>	
2001	H13	12		外部評価	
2002	H14				青葉山回収配管完成
2003	H15				青葉山共同溝-工・薬・学際つなぎ こみ工事 青葉山回収体制完成
					学際センターへ供給開始
2004	H16			ウェブページ開設	
2005	H17			回収率に基づく新ヘリウム料金制度開始	
2006	H18	4		研究教育基盤技術センター内組織へ移行	
				液体ヘリウムのオンライン注文開始	
		11	青木晴善 教授		
2007	H19	10		ヘリウム不足問題 (米国輸出規制)	
2009	H21			外部資金によるヘリウム料金の支払い開始	
				原子分子材料科学高等研究機構 (現 材料科学高等研究所) へ供給開始	

西暦	和歴	月	センター長	低温科学部	極低温物理学部
2010	H22	4		液化機更新 (L280-S、200L/h)  リンデ社製 L280-S 型 200L 液化機	
2011	H23	3		東日本大震災	
				液化システム一部破損	液化システム損壊
2012	H24	4	佐々木孝彦 教授		
				ヘリウム不足問題	
		10			液化システム復旧 (L280、200L/h)  リンデ社製 L280 型 200L 液化機
2014	H26			東北メディカル・メガバンク機構へ 供給開始  東北メディカル・メガバンク機構 800MHzNMR 装置	
2016	H28			極低温科学センター技術職員人事交流	
2018	H30	4		研究推進・支援機構内組織へ移行	
2022	R4			液化機更新 (L280、230L/h)	